

私のがん治療

患者さんの背景全体をみつめ、自然治癒力を高めるべく病を授かった意味に気づき「がんちゃん」に感謝していただくことを理念としています



竹内晃 院長

アンドルー・ワイル博士との
出会いから「癒し」という新
たな言葉に目覚める

—— 先ず先生のご経歴からお話しく
ださい。

福田 平成3年に鳥取大学医学部を卒業し、呼吸器・内分泌学教室で研修したのち、同大学大学院の博士課程を平成8年に修了しました。その後心療内科や精神神経科学を習得し、平成18年に「統合医療センター 福田内科クリニック」副院長として、精神腫瘍科を含めた「がん統合医療」の創始者として、オンライン診療を全国展開しております。

—— 先生が統合医療を取り入れられる
きっかけをお話してください。

福田 研修医になって最初に担当させて

いただいたのが、婦人科で余命3カ月と告知されていた子宮体がん肺転移の患者さんでした。ホルモン療法に加えて、心の持ち方や食養生などの栄養を指導させていただいたところ、肺転移が消えて5年以上生存されました。

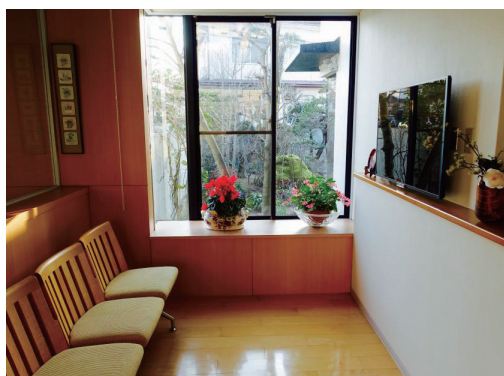
しかし、その後は化学療法や放射線療法によって一時的にがん病巣は縮小しても、やがて増大・転移して数カ月以内に亡くなっていく患者さん何百人もお看取りしながら無力感を感じていました。そんなとき、アンドルー・ワイル博士の著書『癒す心、治る力』や『ナチュラルメデイスン』（角川文庫）に出会いました。「癒し」という新たな言葉に目覚め、まだ日本になかった統合医療にのめりこんでいきました。ワイル

博士が来日された際にも米国の統合医療の現状を直接伺うことができました。30年前のその頃、石塚左玄↓桜沢如一から受け継がれた日本古来の食養生に

傾倒していた私は、メキシコオアシス病院のフランチスコ・コントレランス医師や、『ゲルソン療法』創始者の娘であるシャルロッテ・ゲルソンと出会い、



クリニックは閑静な住宅街にある



清潔な待合室



クリニック内風景

オーストラリア医学や機能性医療が普及していない時代から「がんの栄養学」を学ぶことができました。

また、貴誌に「養生塾」を連載されている帯津良一先生や、インドのフアロック・マスター医師などから、ホメオパシーを中心としたホリスティックなエネルギー医学を学ぶと、当院のがん治療の幅が飛躍的に広がりました。

——医師になられたきっかけをお話してください。

福田 日本脳炎などの脳病理を研究していた父が、40数年前に脳神経内科医としては山陰地方で初めてこの地で開業しました。日夜、休日返上で診察と研究に明け暮れる姿を傍で見ていて、将来に心理学者を志していた私も、次第に精神科医になりたいと思うようになりました。

——先生が医療を行う上で、理念とされていることを教えてください。

福田 患者さんの生まれ持った背景や

生育環境や家族関係など、また肉体をとりまくエネルギー全体を診ることで、確定診断前に8割以上の治療指針の根幹が決まります。自助努力で自然治癒力を高めるサポートをさせていただきながら、病を授かった深層の意味に気づいていただくことを理念としています。

臓器や器官の繋がりでではなく精神や霊性をみつめて、予防から急性期、回復期の治療、また看取りに至る、その方が生まれてから亡くなるまでをセットでまろごと診ています。ターミナルケアという言葉は嫌いですが、スピリチュアルペインの緩和や廃用性症候群からの社会復帰を目指した在宅リハビリも20年前からおこなっています。

「Augmented NAC」はスパイクタンパクを分解血栓やプリオンタンパクの凝集を防ぐ

——がんについてお聞きする前に、新型コロナウイルス後遺症について伺います。先生には本誌2024年8月号の「新型コロナウイルス、ワクチン後遺症とがん」特集にご寄稿いただきました。それらの後遺症で悩んでいる方は、一般の治療では改善されず辛い思いされているらしいです。

福田 当初は新型コロナウイルスに罹った方の後遺症相談が多く、その感染症と後遺症それぞれで、2000人以上の患者さんを診ていました。「新型コロナウイルス後遺症」をわが国で最初に提唱して以来、ワクチン後遺症も2000

人以上診てきました。多くの医療機関では未だにワクチン後遺症とコロナ後遺症の区別がつかないために、治療に難渋しているようです。ワクチン後遺症の治療としては、高濃度ビタミンC点滴療法や抗酸化力のあるグルタチオンをはじめ、さまざまな治療を総動員しています。なかでもイタリアのファビオ・ゾフィ博士らが開発した「Augmented NAC」は、従来のNアセチルシステイン製剤とは違って、ビタミンCやグルタチオン療法における抗酸化能を相乗的に高め、ワクチンのスパイクタンパクにドッキングして変性・解離させることで、プリオンタンパクや血栓を効果的に溶解して尿に排出させる量子医学技術を駆使した画期的なサプリメントです。

——それではがんに関することを伺いますが、こちらにはどのような患者さんが来られるのかを教えてください。

福田 当クリニックは、半径100キロ圏内の近県であれば、週末や休日などに在宅診療もさせていただいております。さらにオンライン診療で国内だけでなく、海外50カ国以上の患者さんを診療させていただいております。

海外のアーユルヴェーダ医やホメオパシー医、栄養療法医などとも毎日綿密に連携しています。がん患者さんにおいては、超早期の未病の方から抗がん剤治療の耐性や副作用で悩まれておられるエンドステージに近い方まで来院されています。

また、最近では新型コロナウイルスワクチン接



診察室

種後にいきなり多臓器や全身のリンパ節にがんが発見されたり、治療後5年以上経ったのに再発し急速進行してしまう、いわゆる「ターボがん」が増えています。これらは、遺伝子の変異や自己増殖を盛んに繰り返すため、従来の統合がん治療が効きにくいことがわかってきました。

——初診に際して気を付けていらっしゃることは何でしょうか。また、がん治療の現状をどう思われますか。

福田 患者さんご家族、そして我々医療を施す側との思いが異なっていることがありますが、このようなことのないように留意しています。

病診連携を怠ったり、がん病巣の治療のみに執着したり、十分な説明もなく高額医療を押し付けてしまう医師も散見されます。私の先輩医師はシニア世代になりますが、ほとんどがターミナルケアやお看取りをされていますが、残念ながら後輩医師になりますと、少

▶ 統合医療センター福田内科クリニック

〒690-0015 島根県松江市上乃木 9-4-25

T E L : 0852-27-1200

<http://tougouiryoku-fukudaclinic.com/>



治療に取り入れているサプリメント

当院のがんに対する統合医療戦略はおそらく日本一多彩だと思えますが、戦略・戦術が多くても、それを適切なタイミングで提供していくことが大切

生体エネルギー療法などの心身医学療法や、認知療法・認知行動療法などのカウンセリングは保険診療でもおこなっています。

——クリニックでは、保険診療を基本として希望があれば自由診療も受けられるという、患者さんの意志を尊重されていらっしゃるようですが、この点はいかがでしょうか。

福田 当院の来院患者さんの9割は保険診療ですが、初診時から自費診療を希望される方もおられます。

保険診療内を希望されるのであればその範囲内で一番良いと思われる治療を行う

です。患者さんにとって最も大切な心掛けは、自分がこしらえた体内であるがんを敵視するのではなく、可愛い「がんちゃん」に愛を送る「愛がん精神」を持つことだと思います。

——保険診療が多いとのことですが、自由診療ではどのような治療を行っていますか。

福田 高濃度ビタミンC点滴療法はじめ、血液オゾンやバイオフィット療法、ロシアのFDAで医療機器認可された次世代水素吸入（スイソニア®）、αラドン吸入や、自家がんワクチンなど、国内外の臨床試験でエビデンスが確立された方法を取り入れています。

日本国内の再生医療は世界各国から10年以上遅れをとっていますが、異種前駆幹細胞移植などの最先端医療は、海外の再生医療専門医療機関と提携してフオローさせていただいています。

高濃度ビタミンC点滴療法は直接がんを攻撃する効果だけでなく、抗がん剤の副作用を軽減する効果があります。最近、メチレンブルーやAugmented NACをビタミンCやグルタチオンと併用することで、ターボがんだけでなく、ワクチン未接種者のがんにおいても免疫力を増強することがわかってきました。



PDTレーザーウオッチの臨床効果を共同リサーチしているアントニオ・ヒメネス先生と

自家がんワクチンは、手術で切除したがん組織からワクチンをつくり投与する治療で、当院ではすい臓がんや子宮体がんにおける単独治療例を経験しており、多施設では手術や放射線療法と自家がんワクチンを併用することで

生存率が向上するなどの脳腫瘍症例が報告されています。治療が難しいターボがんにおいても、原発巣と転移巣、重複がんの複数組織に由来する「ダブル自家がんワクチン」「トリプル自家がんワクチン」の臨床試験にも期待しています。

——他にいられている治療はございますか。

福田 メチレンブルーとの併用でレーザーウオッチ®を使ったPDT療法や、Vidol®でのPBM療法、光がん治療、光線力学的治療を在宅医療でも積極的に取り入れています。

PDTレーザー治療は、がんが集まる光感受性物質を体内に入れ、そこにレーザー光を照射することで光化学反応により治療します。PDTは選択的にがん病巣を治療でき、正常細胞も活性化できる治療法です。PBM治療は、認知症予防や迷走神経の強化の他、新型コロナウイルスの初期感染治療効果や、がんにおける胸腺免疫を賦活する効果が認められています。

福田 がんやワクチン後遺症での精神神経難病などは、この世に生まれた自分を再認識して家族やお世話になった人たち一人ひとりへ心を込めて感謝の気持ちを伝えるチャンスです。そして大病を患ったまたとない運命は、病気を授かる以前の自分よりも心身共に健全に元氣になり、暦年齢よりも生物学的に若返れる絶好の機会です。今日から前向きに回心（改心）していただき、治癒力を高めるべく日々の自助努力を信じて、内発的にも生まれ変わる「実存の変容」の境地を実感していただくと光榮に思います。

——いろいろとお話いただき、ありがとうございます。がん患者さんとはもとより、新型コロナウイルス後遺症やワクチン後遺症の患者さんへの治療がますます発展されますことを期待しています。

最後に、がん患者さんにメッセージをお願いします。

福田 がんやワクチン後遺症での精神神経難病などは、この世に生まれた自分を再認識して家族やお世話になった人たち一人ひとりへ心を込めて感謝の気持ちを伝えるチャンスです。そして大病を患ったまたとない運命は、病気を授かる以前の自分よりも心身共に健全に元氣になり、暦年齢よりも生物学的に若返れる絶好の機会です。今日から前向きに回心（改心）していただき、治癒力を高めるべく日々の自助努力を信じて、内発的にも生まれ変わる「実存の変容」の境地を実感していただくと光榮に思います。